

**後藤 ともなり 議員**  
(一問一答方式)



- ①農業の振興について
- ②子育て支援について
- ③川下地区について(建設中の公共施設について)

**スマート農業の取組について**

**問** 大洲市ではスマート農業推進モデル事業を実施しているが、その取組内容と実績について伺いたい。

**答** スマート農業の普及は大変有効であると認識しており、本市の大半を占める比較的小さな規模の農業従事者においても、農作業の効率化等が図られることで経営規模の拡大につながり、耕作放棄地の解消も期待できます。

本市では、認定農業者連絡協議会での活用事例研修会の開催やアシストスーツの貸出しを行い、実際の農作業での実証も行ってもらうなどの取組を推進しています。

ただし、スマート農業用の機械・機器は通常よりも高価であるため、令和4年度からスマート農業推進モデル事業を創設し、現在までに農業用ドローンやトラクターの自動操舵システムの導入、ハウス内の自動カーテンの整備など、6件について補助を行い、省力化を図っています。

スマート農業は日々進化している分野であるため、引き続き研修会などを開催するとともに、制度の周知に努め、意欲ある農業従事者が活用できるよう事業を推進していきたいと考えています。

**学童保育事業(放課後児童クラブ)の実施状況について**

**問** 放課後や長期休業期間中において、保護者が家庭にいない児童を対象とした学童保育事業について、当市における実施状況を伺いたい。

**答** 学童保育事業は、労働等によって昼間保護者が家庭にいない小学生に対し、授業の終了後等に小学校の余裕教室などを利用して、適切な遊びや生活の場を提供し、その健全な育成を図ることを目的としています。

児童クラブは市内全ての小学校に設置しており、

全てのクラブで1年生から6年生までを対象としています。入会児童数は年々増加傾向にあり、今年度当初は436人の入会がありました。これは全児童数の約26%に当たります。また、基本の開設時間は、平日は14時から18時、長期休業中は朝8時から18時ですが、令和6年度からは朝夕30分の延長及び土曜日保育を開始したことで、保護者の様々な働き方に対応できるようになったと考えています。

延長保育の利用実績ですが、昨年度は朝夕合わせて申込者が67人、延べ2,469回の利用がありました。今年度は10月末までで77人の申込みがあり、利用回数が延べ2,446回となっています。一方、土曜日保育の利用実績は、昨年度は申込者数が49人、利用回数が延べ553回、今年度は10月末までで申込者数が66人、延べ633回の利用がありました。

**なかよしこども園について**

**問** 八多喜町で開園されるなかよしこども園において、こども誰でも通園制度が実施されるが、本制度の概要について伺いたい。

**答** この度、粟津保育所と三善保育所を統合し、移転・改築して開園するなかよしこども園で実施するこども誰でも通園制度は、保護者の就労要件を問わず、1人当たり1か月10時間を上限として、時間単位で施設を利用できる通園制度です。なかよしこども園では、専用室を設けて、年間を通して受入れを行うこととしています。開所時間は8時30分から12時、午後1時から4時30分の予定です。

なお、一時預かり事業は、保護者からの必要性、保護者の都合に対応するものですが、こども誰でも通園制度は、保護者のために預かるものではなく、子供が家庭にいただけでは得られない様々な経験を通して、良好に成長するために支援することが主な目的となっているものです。

本施設は来年4月からの円滑な運営に向けて準備を進めています。供用後は、三善地区、八多喜地区をはじめとした未来を担う子供たちが安心して学び、遊ぶことで、健やかな心と体を育み、将来地域社会で活躍する力を培う場所となるよう地域と一体となって施設運営に努めていきたいと考えています。